

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.230 2020.9.1



「新しい生活様式」と博物館

安全・安心な観覧方法の確立や事業の実施に向けて、試行錯誤を続けています。

もくじ

- 博物館のノートから ◇ 会田富士と山城について……………2
- 博物館のノートから ◇ 糸とり体験講座～蚕の繭から糸をとってみよう!～……………3
- 博物館TOPICS ◇ 収蔵資料大公開展「博物館の逸品Ⅰ～農耕用具コレクション～」……………3
- ガイドコーナー ◇ はんでんぼく……………4



会田富士と虚空蔵山城について

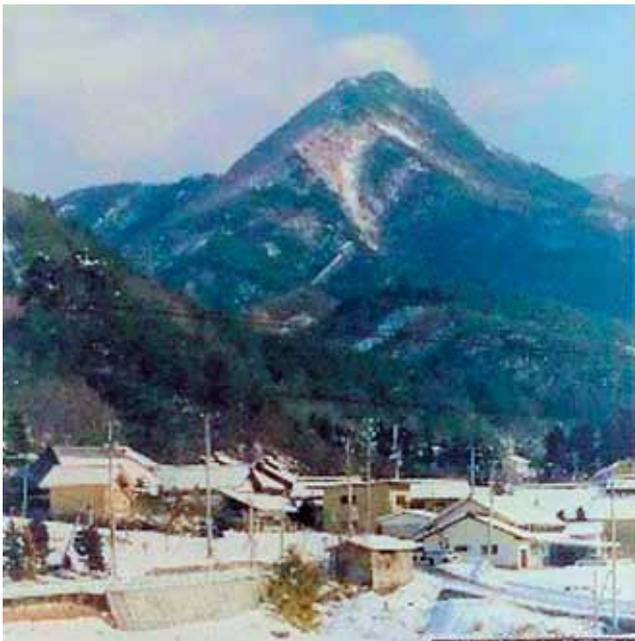
1 会田富士

化石で有名な四賀地区ですが、ほかにも有名なスポットがあるのはご存じでしょうか。地区北部にある虚空蔵山です。富士山のようにきれいな台形をしていることから、地元の人々に「会田富士」と呼ばれ親しまれています。

長野県のような山国では、近代以前に山岳信仰が隆盛していました。会田富士も密教や修験道と深い関わりを持つ信仰の山として発展してきました。

現在の会田富士は、登山口から山頂まで遊歩道が整備され、道中はツツジやフクジュソウといった様々な植物を愛でることができます。また、山頂付近では、岩谷神社の社殿や磨崖仏を見ることができ、信仰の場としての姿も今に伝えています。

四賀五常地区からの眺めが最も綺麗に見られますのでお勧めです。四賀地区にある富士を皆さんも眺めてみてはいかがでしょうか。



四賀五常地区から見た虚空蔵山

2 豪族会田氏と虚空蔵山城

虚空蔵山には、中世の時代に豪族会田氏が本拠とした山城^{※1}の土塁^{※2}や堀切^{※3}が残っています。会田氏は、信濃小県郡（現上田市周辺）の有力豪族海野氏の分流と言われています。四賀地区会田郷に土着した海野氏が地名をとって会田氏と称しました。ちなみに、真田幸村（信繁）で有名な真田氏も海野氏が出自とされています。

会田氏は、山頂の眺望や立地のよさを活用し、虚空蔵山の南側一帯を要塞化し虚空蔵山城を築きます。現存しているのは、南部中腹にある中ノ

陣城、その東側にある秋吉砦といった一部ですが、中世当時にしては堂々たる山城だったに違いありません。会田氏は、虚空蔵山城を軸として、周辺の鷹巣根城（四賀地区刈谷原）、一期城（四賀地区召田）などの数々の城郭を築きました。

戦国時代になると、会田氏は林城（現松本市里山辺）を本拠とした信濃守護小笠原氏の家臣として仕えました。その折、甲斐国（山梨県）の武田晴信（信玄）が信濃に侵攻します。これにより、松本の諸城は次々に落とされ、会田氏の虚空蔵山城も落城しました。武田氏重臣の真田幸綱の勧めもあり、会田氏は武田氏に降参します。その後、武田氏の支配下となり各地で転戦しました。ところが、天正10年（1582）3月、武田氏が織田信長に滅ぼされると、小笠原貞慶が会田氏の虚空蔵山城を落とし、その後会田氏は滅亡しました。

こうして滅亡を迎えた会田氏でしたが、菩提寺^{※4}として建立された広田寺が今なお残っており、会田氏の足跡を感じることができます。広田寺の屋根に注目してみると、会田氏の家紋である「六文銭」が見られます。「六文銭」は、真田氏の家紋としても知られています。家紋という共通点から、真田氏の生き方と比較して、当時の会田氏の生き様を想像してみるのも面白いかもしれません。

3 おわりに

以上のように、虚空蔵山城や広田寺を訪れてみると、会田氏がどのような一途を辿ったのかが分かります。また、会田氏と真田氏の関係性や共通点、松本と上田の関わりなど、様々なことが想像できます。四賀地区や松本市四賀化石館に立ち寄る折、ぜひとも虚空蔵山城や広田寺にも足を運んでみてください。

（松本市四賀化石館 学芸員 / 小林 駿）

脚注

※1 山城…敵の襲来に備え、防衛的要塞として山の中腹や山頂に築かれた城郭

※2 土塁…敵からの防衛のため、土を盛り上げてつくった高まり

※3 堀切…敵からの防衛のため、人工的に造られた溝（堀）

※4 菩提寺…先祖代々のお墓がある寺院

参考文献

四賀村誌編纂会『四賀村誌』（1978年）

平山優『戦国大名と国衆』（角川、2018年）

糸とり体験講座～蚕の繭から糸をとってみよう！～

松本市歴史の里では、館で飼育した蚕がつくった繭を活用するため、「糸とり体験講座」を開催しています。

今年7月23日、通算2回目となる糸とり体験講座を開催しました。偶然、6月末から飼育を始めた約60頭の蚕のうち、3分の2程度が前日から糸を吐き始めるというタイミングでの開講となり、蚕がどのように繭をつくるのかも参加者に見てもらおうことができました。

講座の内容は、ペットボトルを再利用した簡易な糸とり器を使って手作業で糸をとり、最後に取れた糸の長さを計算する、という非常にシンプルなもの。この道具を使った方法は、古い製糸方法である「手挽^{てびき}」という手法に近いものです。

今回の講座に参加した子どもの大半は、蚕や繭を見るのが初めてでした。手元に配られた小さな繭からは、それほど長い糸はとれないように思えるのかも知れません。しかし、円周23cmほどのペットボトルを使って1つの繭からすべての糸を巻き取

るには、約2時間、糸とり器のハンドルを（回した回数を数えながら）回し続ける必要があります。開始から30分も経過

すると、「これは本当に、全部1匹（頭）の蚕が吐いた糸？」、「全然繭が小さくならない！」といった声が聞こえました。糸の長さや手作業で糸をとる手間を体感することができたのではないのでしょうか。

歴史の里には、下諏訪町から移築された旧昭和興業製糸場があります。手作業での生糸作りから、機械製糸へ。建物の持つ歴史を、この体験講座をおとしてより具体的に、楽しく学んでもらえるよう、引き続き開催していきます。

（松本市歴史の里 学芸員 / 八木瑞希）



体験講座の様子

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

収蔵資料大公開展「博物館の逸品Ⅰ～農耕用具コレクション～」

松本市立博物館では開館から100年以上かけて収集・保存してきた資料を、テーマ別に公開する「収蔵資料大公開展」を開催中です。第2弾となる「博物館の逸品Ⅰ～農耕用具コレクション～」では、馬耕犁を中心に、当館所蔵の重要有形民俗文化財・農耕用具コレクションなどを紹介します。

馬耕犁とは、馬に引かせて田の耕起を行うための農耕用具です。馬耕犁の全国的な普及に尽力した人物に、松山原造がいます。原造は、明治8年（1875）に現在の小県郡長和町で生まれました。明治29年から農事教師をしながら考案試作を重ねて、安定性があり深耕が可能な短床犁^{たんしょうすき}を発明しました。明治34年、原造はこの犁に「単鏡双用犁^{たんざんそうようり}」と名付け特許を取得しました。翌年には製作所を設立し、普及に努めましたが、その真価が一般に認識されるまでに、10余年かかりました。この犁が認められるまでには、多くの苦難がありま

したが、支持者たちの思いやりや支援に、原造は非常に励まされたといっています。



単鏡双用犁

このように、農業が機械化される以前の農耕用具には、先人による智恵や工夫、そして苦勞が込められています。馬耕犁の他にも、稲作の流れに沿って多くの農耕用具を紹介します。ぜひ本展にお越しいただき、先人の足跡に触れてください。

（松本市立博物館 学芸員 / 石原花梨）

収蔵資料大公開展「博物館の逸品Ⅰ～農耕用具コレクション～」

【会 期】9月5日^土～10月4日^日

【会 場】松本市立博物館 2階特別展示室

【料 金】通常観覧料（大人200円、小中学生100円）

四賀化石館から

☎0263-64-3900

化石教室「レプリカ作りコース」

石こうを使ってアンモナイトや三葉虫のレプリカを作ります。レプリカが出来上がったら、自分の好きなように色を塗って完成です。本物の化石のように塗ってもよし、七色の虹のように塗ってもよしです。皆さんが想像する古生物はどんな色ですか？

日時 10月31日(土)、11月28日(土) 午前9時30分～11時30分、午後1時30分～3時30分
会場 松本市四賀化石館
料金 500円
定員 各回先着20名(要予約)
対象 5歳以上(小学生以下保護者同伴)
申込み 10月6日(火)午前9時から電話で受付開始



窪田空穂記念館から

☎0263-48-3440

企画展「ふるさと松本をうたう」

窪田空穂をはじめとした松本に関係のある歌人や俳人を、その作品とともに紹介します。

会期 9月12日(土)～11月23日(月・祝)
会場 窪田空穂記念館
料金 通常観覧料(大人310円、中学生以下無料)

企画展記念講演会「風土と短歌—空穂を中心に」

日時 10月24日(土) 午後1時30分～3時
会場 窪田空穂生家(窪田空穂記念館向かい側)
料金 無料
定員 30名(要予約)
講師 今井恵子氏(歌人、『まひる野』編集委員)
申込み 10月6日(火)午前9時から電話で受付開始

松本民芸館から

☎0263-33-1569

民芸座談会「いまなぜ工芸か」

日時 11月8日(日) 午後1時30分～3時
会場 松本民芸館
料金 通常観覧料(大人310円、中学生以下無料)
定員 30名(要予約)
講師 鞍田崇氏(明治大学准教授)
三谷龍二氏(木工作家)
申込み 10月9日(金)午前9時から電話で受付開始

旧山辺学校校舎から

☎0263-32-7602

バス見学会「山辺の里の道祖神・文化財めぐり」

日時 10月10日(土) 午前9時～午後3時30分
集合場所 松本市教育文化センター南側入口付近
料金 500円(資料代・拝観料)
定員 10名(要予約)
講師 出井東亜雄氏(山辺歴史研究会顧問)
持ち物 昼食・水筒・筆記用具等
申込み 9月19日(土)午前9時から電話で受付開始

掲載されている各種事業は、新型コロナウイルスの感染状況によって急遽中止となる場合がございます。開催の可否等については、各館にお問い合わせください。

あとがき

人の集まっているところに立ち入るな、人と話すときは1mくらい離れなさい、人のいるところでは必ずマスクをしなさい、たびたびうがいをしなさい。これは100年前のスペインかぜの感染予防対策です。大正時代の人々も、現在の私たちと同じような対策をして過ごしていたというのはなんだか不思議な感じがします。(M・E)

重文馬場家住宅から

☎0263-85-5070

企画展「馬場治左衛門と道中日記録」

馬場家十二代当主が残した、明治初期の「道中日記録」。西国への旅の中で見た日本の様子を紹介します。

会期 9月12日(土)～11月8日(日)
会場 重要文化財馬場家住宅
料金 通常観覧料(大人310円、中学生以下無料)

他にも「はた織り体験講座」や「布ぞうり作り体験教室」も開催します。詳しくはまる博ホームページへ。



歴史の里から

☎0263-47-4515

建築講座「松本のたてももの2020」

地元の建築士の方々と松本の伝統的な建物を紹介します。今年度のテーマは「擬洋風」です。

〈パネル展〉

会期 10月27日(火)～12月27日(日)
会場 松本市歴史の里
料金 通常観覧料(大人410円、中学生以下無料)

〈講演会・展示解説〉

日時 10月31日(土) 午前10時～正午
会場 松本市歴史の里
料金 通常観覧料(大人410円、中学生以下無料)
講師 梅干野成史氏(信州大学工学部准教授)
展示解説 市内の一級建築士の方々
申込み 10月6日(火)午前9時から電話で受付開始

他にも「はた織り体験講座」や「草木染め体験講座」も開催します。詳しくはまる博ホームページへ。



時計博物館から

☎0263-36-0969

日本浮世絵博物館共催展「江戸時代の絵本と浮世絵」

会期 10月3日(土)～25日(日) ※月曜休館
会場 松本市時計博物館 3階企画展示室
料金 通常観覧料(大人310円、小中学生150円)

松本市立博物館から

☎0263-32-0133

収蔵資料大公開展「生活と色～暮らしを彩る意匠～」

会期 10月17日(土)～11月29日(日)
会場 松本市立博物館 2階特別展示室
料金 通常観覧料(大人200円、小中学生100円)

あなたと博物館 No.230

発行年月日/令和2年9月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL: http://www.matsu-haku.com/
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.lg.jp



印刷 川越印刷株式会社